

第3回 清水都心ウォーターフロント活性化検討委員会

議 事 録

日時：平成 25 年 3 月 8 日（金）13：30～15：30

場所：港湾会館清水日の出センター別館 14 階（浪漫館）

■加賀谷所長挨拶

〔加賀谷委員〕 前は本省にいて、横浜に住んでいた。港の近くで仕事をしていくうえで協力していきたい。

■横内委員長挨拶

〔横内委員長〕 本日は、第3回目。今年度最後の委員会。景観はいいのに、人がいない。こういうところに人が出てくる仕掛けを。水辺の楽しさを感じる港。多くの人に理解していただけるように。3回目なので、委員の皆さんにも積極的な意見をいただきたい。

■検討資料の説明（省略）

■意見交換

〔横内委員長〕 3回目ということでだいぶ絞り込んでいただいて、4つの地区を対象に、具体的な展開を提案してもらった。4つに分かれているので、一つずつ意見をいただきたい。まず江尻地区はどうでしょうか。

〔大石委員〕 埋立地に立体駐車場を描いているが、飛島地区の取り付け道路の関係で、そちらに大型車両と観光自動車の混入が心配される。物流と賑わいの整理ということで、ここで立体駐車場だと、心配だ。輻輳してしまうことが心配されるので、駅から海が見えないから立体駐車場ということなら、テルサのほうにとか考えられないのか。ここで固定して考えているというものではないということでしょうか？

〔事務局〕 飛島地区だけでなく、南側も大型車両との輻輳を考える必要がある。地元からも意見を聞きながら今後の検討していく必要があると考えている。位置は固定ではない。一つの提案である。

〔横内委員長〕 今後そういうことの調整を検討してほしい。次に日の出緑地地区についてはどうか？ご意見ないようなので、また後で戻ってくるので、次に進めます。日の出ふ頭は、4、5号上屋は壊して、6号上屋を活用する案ですがどうでしょうか。

〔新聞委員〕 第一段階というのは平成 29 年度までに完成させるということだが、日の出ふ頭地区と日の出ふ頭緑地地区同じように 29 年度までに目指していくということで、いいのか？細かいことはこれから調整していくことで解決するだろう。全体としては、こういうふうによれば、にぎわいは広がると思う。

〔齋藤委員〕 29 年までだとしても 4 年もあるので、すぐにできることもやってほしい。まずは自転車歩行者道からお願いしたい。経済人クラブの方が簡単な絵を描いている。自歩道に向けた

カフェは繁盛している。JRのさわやかウォークのようなものを巻き込んで、月に1回程度みんなまで歩くなど、周知を進めていくのがいいのではないかな。

[渡辺部長] 自歩道については、20年3月に清水港ビジョンを策定し、具体化を進めている。25年度に2700万円予算を確保しており、自歩道の社会実験を進める。ソフトとハードの両面から取組み、樹木や花、プランターを置きながら景観を改善し、ベンチや東屋による休憩施設の整備、オープンカフェ、軽トラ市など考えている。

[横内委員長] 社会実験で、セグウェイや電動自転車などの試乗ができればいい。メーカー等民間の協力を仰いでやったらいいのではないかな。河岸の市との接続部が問題である。

[齋藤委員] セグウェイは指定管理者の事業として、マリパークで1度やったことがある。レンタル自転車もやったことがある。

[熱川委員] 自歩道の社会実験について、水上バスはやらないのか。どのような組織で進めるのか。

[事務局] 水上バスは考えていない。組織については、日の出周辺の市民団体、企業、近隣自治会など様々巻き込んで進めていきたいと考えている。

[熱川委員] 商工会議所では中心市街地のエリアマネジメントをやっているのだから、人をつなぐところでご協力をしていきたい。マリターミナルを商業的に活用するというのを考えた場合、人を取り合ってはしょうがないので、ドリプラとの相乗効果を意識して考える必要がある。そして江尻にもつながっていくということが重要である。

[大井委員] キャパシティがないと民間事業者は出てこない。集客エンジンはいま河岸の市とドリプラのみ。これだけでいいのかというのはある。商業施設に限らずとも、拠点がもうひとつ程度あるといいと思う。商業施設である必要はない。いくつかのポイントが出来ると、さらに商業施設の誘致ができるかもしれない。ふ頭や東洋製罐跡地がそういう可能性があるのではないかな。

[熱川委員] マリンビルの1階を集客装置として使えないか。海側に向いているし、ドリプラとターミナルのつながりになるのではないかな。集客施設の強味としては、商業労政でやっているちびまるこまちづくり、中心市街地と港をそれをつなぐということを考えてはどうか。

[林田委員] 総括的にはぜひ進めてほしい。個別の内容もいろいろ課題があるだろうが一つずつ進めていっていただければと思う。どこから人を集めるか。まず地元と考えて自歩道に手を付けるのはいいアイデアである。次の段階として、清水だけでなく外部から人を集めるには、フェリーをもっと有効に使うべきだ。フェリーに乗るのは中京圏、西からくる人たちを連れてきて、伊豆につれていく。また、いったん伊豆に泊まった人をフェリーで清水に連れてくるのもある。伊豆から清水に来たくなる強い何かをここでつくるのが重要である。何を足すかは議論が必要である。たとえばアウトレット、御殿場は年間100万人来訪する。沼津港も東京からの路線バス1日1往復で、水族館があり評判がいい。清水ももう少し何かを加えると人が呼べて、日本平動物園や久能山も生きてくる。29年といわずスピード感をもってやらないと地域間競争に負けてしまう。

[梅原委員] 4地区の構想と課題をしっかりとまとめてもらったと思う。各地区の課題を確実に解決していきながらスケジュール感をもってやっていただきたい。その際、地元をしっかり組み込んで進めるべき。日の出では物流との調整が出て来るし、自歩道のネットワークが活性化してきた。江尻では駐車場の話がある。来年度社会実験をやるということだが、海上交通で周辺との交流を高める、こちらも社会実験でやってほしい。

[横内委員長] 4、5号上屋はどうするか。

[梅原委員] 上屋がなくなると防護ラインがなくなってしまう。どうするかという問題がある。建物の代わりに、築山みたいなものが必要だろう。駿河湾APでは、地元の意見を聞くことになっているので、計画に反映していきたい。

[山崎委員] 賑わい創出に関して県や市への提案がさまざまある。しかし、整備をただけでは賑わいは創出しない。民間がどれだけ投資する気持ちになるかという基盤づくりが公共の役割だと考えている。民間が投資したくなるような仕掛けをしていくことが重要である。ドリプラ以外にも出てもいいよということ、民間が積極的に出てくれるよう考えるべき。

[梅原委員] 43ページ以降の今後の進め方に、景観法に基づく景観計画を定めているだろうから、この視点を加えてほしい。

[加賀谷委員] 江尻地区と日の出地区に拠点をつくり、回遊させていくということだが、江尻地区には、駅前だから、日の出方面のことを周知する機能が必要ではないか。逆に日の出地区にも江尻へ誘導するような仕掛けが必要ではないか。今後考えてほしい。日の出地区も江尻地区も海岸保全施設が整備される必要があるということで、うまく調整していかないといけない。のんびりしてられない議論だと思うので、県と協議していきたい。関係ない話になるが、清水区に引っ越してくるということで、全国の友達にも案内したところ、清水港線はそのすじの人たちはよく知っているらしい。観光コンテンツの中に、そういうことも意識してほしい。

[竹田委員] 整備については、自歩道から進めるとのことで大変いいと思う。林田委員からの話もあったが、港町であれば海側が表玄関になるように海側からアプローチ出来る開発を考えてほしい。表玄関をアピールすることが必要である。人が来ないと民間の投資も進まない。日帰りだけでなく、宿泊も意識して欲しい。また、居住空間として定住人口のことも見直して考えていただきたい。

[宮城島委員] 駅から江尻地区までの臨港道路を渡るデッキを早く進めてほしい。駅の西側との交流も広がる。4、5年もかけずにやってほしい。津波などに対して避難場所となる可能性もあるため、一日も早く進めていただきたい。

[事務局] 地元と一緒に検討しながら進めていきたいと考えている。スケジュールは1日も早くと考えているが、協議の時間、予算の問題など調整して進めていきたい。

■横内委員長のまとめ

[横内委員長] はじめは長期計画的なものも入れながら話をしてきたが、具体的に変化を見せることが重要であるため、3回目は短期的な目標でやれることを示した。東洋大学の根本先生が、

映画館とディズニーランドの違いを認識すべきとの話がある。映画館は映画を見て感動するが映画館を出た後現実に引き戻される。ディズニーランドはアトラクションを楽しんだ後、余韻が残る。後者のような空間を清水港ウォーターフロントとしては目指してほしい。江尻地区、日の出地区、もうひとつあれば連なっていくのではないかと考えている。日の出ふ頭周辺であろう。条件がある。ディズニーランドはキャラクターがたくさんある。これが重要である。清水港は、富士山やちびまる子ちゃん、エスパルスなど代表するようなキャラクターがそろっている。このあたりをしっかりと生かしてやっていくべきであると思う。単に劇場から出たらどこかへ行くのではなく、少しでも長くいてもらう、ほかの場所にもよってもらう。民間事業者にはこれに協力していただきたい。

今後、自歩道、江尻地区、日の出地区と検討を進めるにあたり、ターゲットを絞り込んだ関係者の協議会を組織すべきである。事業費、法制度の問題、進め方など、中心的な組織を作り話し合っていると、かなりスピード感が出てくるのではないかと思う。全体的な議論は、年数回あればいいが、地区ごとのことは、密にやっていくことが大事。今回の議論では、3つ目の拠点、フェリーの活用、民間の機運醸成というキーワードがある。行政側の計画に民間が乗るというのではなく民間側から行政に提案するというのもやってほしい。東京の浮体レストランは規制緩和の制度見直しだけだった。お金はすべて民間企業が準備した。ここまでは民間がやるがこれは公共側に頑張ってほしい、そういった関係性でお互いにすすめていくことが大事である。

以上